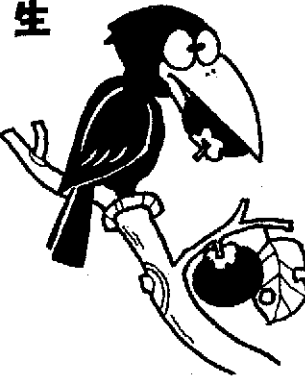


ひろば大代

NO.316

大代公民館

H17.11.23



新生大田市誕生

市議会議員 木村幸司

平成17年10月1日、大田市と邇摩郡が合併し、面積436k㎡ 人口42000人 全世帯数16400世帯の、新生大田市が誕生いたしました。

大代町にとっては、大家と八代の合併・大田市との合併そして今回と、三度目の合併を経験する事となったわけですが、大代の方にとって、この度の合併は住所が変わるといったような大きな変化もなく、普段と変わることのない日々ではないかと察するところで

三位一体の改革による交付税の削減

は、自主財源に乏しい地方自治体にとって自治体の運営・存続に非常な危機感を募らせるものでした。表現の仕方が、適正ではないかもしれませんが、それぞれに学生生活をしていた三人の子供が、バイトで稼げる収入(自主財源)が乏しいので、親から仕送り(地方交付税)をしてもらう。ところが、仕送りをする親の方が財政的に困難になり、仕送りを減らすといってきた。子供たちは共同の生活を始め、バイトの収入を持ち寄って無駄な経費を省きながら学生生活を続ける。極端で雑ばくな表現ではありますが、この度の合併は、そのようなものであったと思います。

大代町にとりましては、市の端っこでなくなったことや、行政手続をするのに温泉津町役場が大田市の支所となり近くなったこと等々、今のところ、色々な面で利に転じた事が多かったのではないのでしょうか？

さて、合併を致しました新生大田市。ご存知の通り新市の市長選が行われ、改革断行を旗印に、五つの改革重点策・八つの取り組みを選挙公約に掲げられた、竹腰創一氏が初当選されました。

た。市議五年・県議八年の経験を活かされ、改革断行の旗印の下、新生大田市の活力ある発展のために全力を尽くしていただきたいと期待するところでございます。

とは言え、国の政策による税源移譲や交付税の削減は、財源に乏しい大田市にとって、光さすものではございません。引き続き厳しい財政状況の中で、行財政運営をしていかなくてはならない訳であります。削減をしないといけない経費は削減をしながらも、必要である事業には経費をつぎ込んでいかななくてはならない、新生大田市にとって、今何が一番必要なのか、優先順位をたがえる事のないように、私たち議員もさらに気を引き締めなくてはならない。住民の立場に立って研鑽に勤めなくてはならないと、決意を新たにしているところでございます。

今、私が最も必要と感じている事は「行動する」と言う事でございます。それぞれの立場の方が、それぞれに行動をし正しい方向へと導いていかななくてはならない。これは、私たち議員や、行政職員だけでなく、住民の皆様もそ

うあるべきと考えております。行政は税金で運営されているのです、皆様方はいわゆる株式会社大田市の株主な訳でありますから、運営に意見する権利をお持ちな訳です。行政におんぶにだっこではなく、皆様の知見に立って提案をするという行動は大田市発展に欠かせない事だと思えます。行政と市民による協働のまちづくりです。

自分たちの住んでいる町は、自分たちで守らなくてはなりません。我が町の事は住んでる方が一番良くご存知の事です。地の利を活かした施策を展開していく為にも、皆様方からのご提案が必要だと思えます。

我が町「大代町」は中山間地域の上、高齢化がすすむ当地でございますが、蕎麦道場や野菜市の運営・大江高山の自然保護・一万円札の会による三極の栽培そして出荷・県道の草刈・二十年も続いている都市とふるさとを結ぶ交流会等々、大田市においても、元気な中山間地域の手本となっております。大代における「高齢化」は、世間一般に心配される「高齢化」とは違い、歳をとってもいっそう元気な高齢化です。

私自身も、皆様に負けることなく元気に、皆様とご一緒に引き続き「我が町活性化」の為に研鑽に勤めます。老若男女互いに知恵を出し合いながら、ふるさと活性化のために頑張りましょう。その事は、大代町のみならず、大田市の発展にもつながっていくと思えます。意識・認識が変われば現状が変わります。大代町が大田市中間地域活性化の手本となり、大田市活性化の原動力となる様、頑張ろう！

合併に関して、今私が思うことを長々と書き記しましたが、皆様方のお知りになりたい情報とはかけ離れていたかも知りませんがご勘弁ください。この文書をご覧になる頃には、臨時議会も開催され、新しい市長の所信表明もされていく事と存じます。皆様にとって、これからの大田市が、住んでて良かったと思う町となります様に、私自身も研鑽に勤めながら、尽力いたしたいと思えます。益々のご指導・ご鞭撻よろしくお願い申し上げます



「大江高山登山」

福岡市 佐田加代子
(旧姓 山口)



♪ふるさとの山に向いて言うことなし
ふるさとの山はありがたきかな♪
大江高山登山で、思わずこの歌を口ずさみました。

この度昭和三十二年度、大代中卒業生で、足腰達者なうちにと、もう一度高山へ登ることになりました。十一月三日は都合よく「大代秋の登山」とご一緒することとなりました。事前に下草が刈られ登山道の整備がされ、飯谷側から山頂までは一時間半程の急坂が続く汗びっしょり。四つんばいで頑張る八〇八Mの頂上にやっと辿りつきました。

山頂は、さわやかな秋風が、吹きぬけ三六〇度の眺望。あちらこちらの紅葉が見渡せました。ひと休みして山田側頂上へとむかいます。この尾根づたいは自然林の中、起伏もゆるやかで、気持ちよく歩け高山一番の見せ所といったところでしょう。

下りは速足にて、一気に山田へ着きました。皆まだまだ足も腰も達者だと喜び合いました。そして心のこもった手打ちの十割ソバをごちそうになり、おいしくて懐かしいふる里の味に感激もひとしおでした。



次に「城山」も登りやすくなっていることを聞き、城山に登るため道をたずねた葛原さんのお母さんとお嫁さんの二人が、山頂まで同行して下さいました。この山も眺望よく、山頂から見た大江高山の姿は、私には一番美しく

思えました。又、大家の街並みや赤い瓦、澄みきった空に見渡すかぎりの田園風景にしぼし見とれていました。この大代の自然が、いつまでも美しいままでありますように。そして、この自然を守ってこられた、親切でたおやかな大代の皆様に感謝しつつ、沢山のエネルギーを頂き、なつかしいふるさとに別れをつけ、福岡への帰路となりました。

山頂からの発信

登山ノート記録より



4月15日 (金)

千葉県より一等三角点を目指して登りに来ました。

登山口より正味足の動いていた時間が一時間小休止タイムの合計18分で着きました。ミスミソウは一輪だけ見ました超急登に花をそえてくれました。周辺の山々は割合と深い霞に包まれており、至近の山しか眺められませんでした。

千葉県

4月16日 (土)

江津から花の写真を撮りに一人で来ました。一番乗りで頂上に誰もいません。

良い写真が撮れたらホームページに紹介します。

<http://hayaokidori.nobody.jp/ooetaka>

yama.html へどうぞ

江津市

5月17日 (火)

岡山、両備バスツアーでまいりました。チゴユリ、ミヤコアオイ、ヤマチゴユリ、ササユリ、などいっぱいお花があり、楽しく登山が出来ました。

6月から7月に来るとトリカブトの花など咲くと思います。ニリンソウも嬉しい。

岡山県

8月31日 (水)

山田側から登りました。道がいぼらとあざみに悩まされました。草刈がしてあればと残念です。山口県

10月9日 (日)

地区の方達がしておられる登山道の

整備に出会い感謝です。天気もよく一度は登ってみたいと思っていた山に登れともうれしい気持ちでいっぱいです。気持ちのよい地元の方達にも感激しました。有難うございました。

東出雲町

ふる里談義

久手町 原田万里



胸襟を開いて語れる

友のあることは 幸せです

いつでも 帰れる

ふる里のあることは 幸せです

永遠に忘れられない

ふる里に 幸あれ

これは、関西高山会（大代町出身者の会）に私が贈った詩です。毎年の総会の席で歌っていたいただいています。

私に「あなたのふる里とは」と問われたら、迷わず「父母の体臭のある所」と答えるでしょう。

幼少期に病弱であった私は、何度死の恐怖をさ迷ったことでしょうか。その度に両親は献身的に私を守ってくれました。普段は空気のような存在の親で

したのに。

やがて、私は公務員となり辞令一本で、県内を巡る身となり、当然のように家族を連れて赴任地に赴むいていました。そんな生活の中で、或る時、子供が「私にはふる里が無い」と云ったのです。その言葉を聞いた私は、言葉を失い、頭が真っ白になりました。子供が安心して帰って来られる「ふる里」として構えたのでした。

私の心のふる里はやはり、「生を受けた大代町」が忘れられないのです。

【案内】

▼11月29日（火）紙すき体験

午後13時30分から山田の一万円札の工場にてどなたでも参加できます。

12月行事予定

▼3日（土）男の料理教室

午前9時30分から公民館調理室にて参加希望者は公民館まで12/1迄に申し込んで下さい。

▼5日（月）あすなる俳句会

▼11日（日）福祉弁当

▼12日（月）クリスマス会

公民館にて午後7時からどなたでも

▼20日（火）さくらんぼ教室

▼23日（金）連合自治会

【お知らせ】

◎大代地区社会福祉協議会から

先日の文化祭にてご協力頂いた共同募金は一万九百二十四円でした。有難うございました。

【編集後記】

若い頃、秋は憂うつになる季節でしたが、今この年齢になりますと、色々なおいしい物も沢山食べられますし、何よりも紅葉は心がワクワクするくらい感動します。

車で山道を通る時など、上から舞う様に落ちてくる木の葉、そして前の車が吹き上げてダンスをしている落葉達、本当にすてきな光景です。音楽を聴きながらそんな秋を楽しんでいます。皆さんの秋の楽しみは何ですか？

(M)

